

年頭の挨拶

島根県神社庁

庁長 角河和幸



皇紀二六八四年、令和六年甲辰歳の新春を言祝ぎ、先ず以て皇室の御安泰と

国家の繁栄、世界の恒久平和をお祈り申し上げます。また、県内神社の御隆昌と氏子崇敬者の皆様方の益々のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。畏くも天皇陛下におかせられましては、御機嫌麗しく日々御精励遊ばされておられますこと、誠に慶賀に堪えず、大御代の長久と皇室の弥栄をご祈念申し上げます。

さて本宗と仰ぐ神宮におかれましては、次期式年遷宮に向けて令和七年には諸祭の始めである山口祭が執り行わ

れます。式年遷宮は天皇陛下の御聴許を得て取り進められる事であり、私ども国民は心一つにして遷宮に携わることが肝要です。今はその時に向かい神宮崇敬の念の涵養と神宮大麻頒布により一層の尽力を致すところでありま

す。神社本庁におきましては昨秋定例評議員会が開催されました。冒頭の鷹司統理の挨拶では令和五年は関東大震災発災より百年であり、先人の取り組みに触れられて、災害に強い国づくりに期待される旨の話が始まりました。議事は前年度の一般会計歳入歳出決算などの定例議題を始め、新型コロナウイルス感染症に関する特例措置の廃止が承認されました。

島根県もコロナ感染症の為、諸行事を自粛してまいりましたが、昨年は対策を取りながら協議員会をはじめとする諸会議や神社関係者大会も四年ぶり開催することができました。当大会において表彰の栄に浴されました方々

に改めて敬意を表するとともに、益々のご健勝と更なるご活躍をお祈り申し上げます。

それぞれの地域においても、この四年間、コロナ感染症により日常生活はもとより、祭事、伝統行事などが自粛されてまいりました。今こそ私たちはこのような未曾有の困難を乗り越えられてきた先人たちに倣い、新しい生活様式を取り入れるとともに、地域社会の紐帯となるべく神社の護持運営に一層尽力していかねばなりません。そのためにも神職は資質向上に努めて、祭祀の厳修、氏子崇敬者の教化に尽力していただきますたく存じます。

結びにあたり、迎えました新しき歳が我が国を始め、四海万邦に争いの無い豊かで平和な歳であるようご祈念申し上げます。神社庁に対しましても変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

島根県神社総代会

会長 木佐明宏



明けましてお
めでとうござい
ます。

令和六年甲辰
の新年を迎え、

皇室のご安泰と、神宮をはじめ県内神
社のご隆昌、更に皆様方のご多幸をお
祈り申し上げます。

平素より、氏神様、崇敬神社の護持
運営はもとより、島根県神社庁並びに
島根県神社総代会の事業推進に格別の
ご理解、ご協力を賜っていますことに
厚くお礼申し上げます。

畏くも天皇・皇后両陛下におかせら
れましては、昨年ご成婚から三十年の
佳節をお迎えになられました。誠にお
めでたく心よりお慶び申し上げます。
また、日々祭祀・公務にご清励遊ば
されておりますこと、実に有り難く慶
賀に堪えない次第であります。

両陛下は昨年六月、一週間にわたり
国賓としてインドネシアを公式訪問さ
れました。親善目的の外国訪問は即位
後初めてで、両国の交流と友好親善に
大きな成果を収められ、さらなる交流
発展が期待されます。

両陛下のご健勝と大御代の弥栄をお
祈り申し上げます。

本宗と仰ぐ神宮におかれましては、
コロナ禍の苦難が軽減されつつある今
日、神宮への参拝者数は元の賑わいを
取り戻しつつあるとのこと、喜ばしい
限りであります。

我々は、次期ご遷宮を見据えて、神
宮大麻頒布の意義を再認識し、一体で
も多く頒布増体になるよう尽力しなけ
ればならないと存じます。

令和二年以来三年余にわたり続いた
新型コロナウイルス感染症は、ようや
く軽減傾向が見られ、社会活動が再開
の様子です。総代会の諸行事も出来る
だけ元に戻して実施していく所存です。
引き続きご協力をお願い致します。

近年、我が国は人口減少社会の到来
を迎え、地域共同体の崩壊が懸念され
ています。県内神社を取り巻く環境も、
過疎化の影響を受け、多くの課題に直
面しています。古えより、地域社会の
紐帯として崇敬されてきた神社の伝統
を受け継ぐことが我々の使命と存じま
す。

皆様方には、氏神様や各ご家庭のお
祭りに率先してご奉仕戴きたく、又後
継者の育成とご指導をお願い申し上げ
ます。

結びに、今年こそコロナ禍の終熄と、
さらに戦争終結による平和の快復を切
に祈り、年頭のご挨拶と致します。



月	日	曜	主催	行事	場所
6	未定		神宮	評議員会	神宮会館
			神政連本部	本部長・事務局長会	神社本庁
			〃	中央委員会	〃
7	6	土	全国氏青協	全国氏子青年協議会定期大会	青森県八戸市
	10	水	県神社総代会	総代会監査会	神社庁役員室
			〃	代議員会	神社庁大会議室
			日本会議島根	理事会	〃
	未定	島根県神社庁	広報委員会	神社庁小会議室	
〃		国民精神昂扬研修会(教化委員会総集会)	神社庁大会議室		
8	7(水)~9/3(火)		〃	階位検定講習会	神社庁研修室
	21	水	〃	監査会	神社庁役員室
			〃	役員会	〃
	28	水	広島県神社庁	広島県神社関係者大会	広島市
	29(木)~30(金)		中国地区神社庁	中国地区教化会議	山口県
9	11	水	全国神社総代会	全国神社総代会大会	香川県高松市
	17	火	神宮	神宮大麻曆頒布始奉告祭	内宮神楽殿
			神社本庁	神宮大麻頒布曆秋季推進会議	神宮会館
	24(火)~28(土)		中国地区神社庁	中国地区中堅神職研修(乙)	山口県
	25	水	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	26	木	〃	神宮大麻曆頒布始奉告祭 (祭員・奏楽→石見地区)	神社庁神殿
			〃	支部長会	神社庁小会議室
			〃	総務委員会(本庁・県規程表彰審査)	神社庁役員室
	27	金	全国敬神婦人会	全国敬神婦人会大会	北海道札幌市
	未定	神社本庁	神宮崇敬会事務局長会	未定	
		〃	神社庁長会	神宮司庁	
〃		「皇室」普及委員会	〃		
10	7	月	山口県神社庁	山口県神社関係者大会	山口市
	15	火	神宮	神宮初穂曳	神宮
	17	木	大社國學館	大社國學館大祭	大社國學館
	未定	神社本庁	評議員会	神社本庁	
		島根県神社庁	神宮大麻發送	各支部へ	
〃	〃	広報委員会	神社庁小会議室		
11	18	月	〃	祭祀委員会	〃
	19	火	〃	例祭・新嘗祭 (祭員→庁長・祭祀委員・神青・女子神、 奏楽→出雲地区)	神社庁神殿
			〃	表彰式	〃
			〃	総務委員会	神社庁役員室
			〃	教化委員会	神社庁小会議室
	28(木)~29(金)		神社本庁	全国教化会議	神社本庁
未定	中国地区神社庁	中国地区職員研修	岡山県		
12	5	木	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	6	金	〃	役員会	〃
			〃	身分選考委員会	〃
			〃	研修所企画会議	〃
	27	金	〃	御用納祭	神社庁神殿
未定	〃	広報委員会	神社庁小会議室		
	県敬神婦人会	総会	未定		

令和6年 島根県神社庁 年間行事予定表

月	日	曜	主催	行事	場所
1	4	木	島根県神社庁	御用始祭	神社庁神殿
	25	木	〃	正副庁長会	神社庁役員室
			〃	役員会	〃
			〃	神社庁新年互礼会	武志山荘
	26	金	〃 神社庁研修所	新年祭(祭員・奏楽→出雲地区) 研修所講師会議	神社庁神殿 神社庁小会議室
27	土	〃	支部祭式助教研修会	神社庁祭式教室	
2	11	日	日本会議島根	建国記念の日奉祝行事	未定
	17(土)~18(日)		神社庁研修所	初任神職研修(前期)	神社庁研修室
	18	日	県神青協	竹島領土平安祈願祭	神社庁神殿
	19(月)~20(火)		中国地区神社庁	中国地区神社庁連絡会議	島根県主管
	22	木	島根県	竹島の日記念式典	島根県民会館
3	27	火	島根県神社庁 〃	祈年祭・神宮大麻暦頒布終了奉告祭 (祭員・奏楽→出雲地区) 支部長会	神社庁神殿 神社庁小会議室
	3(日)~5(火)		県教化委員会出雲部会	出雲部参宮(第1班)	伊勢市
	5	火	神宮 神社本庁	神宮大麻暦頒布終了奉告祭 神宮大麻暦頒布春季推進会議	内宮神楽殿 神宮会館
	10(日)~12(火)		県教化委員会出雲部会	出雲部参宮(第2班)	伊勢市
	12	火	神社庁長懇話会	神社庁長懇話会	神社本庁
	13	水	神社本庁	神社庁長会	〃
	17	日	大社國學館	卒業式	大社國學館
4	未定		神社本庁	「皇室」普及委員会	神社本庁
	11	木	島根県神社庁	広報委員会	神社庁小会議室
	17	水	大社國學館	入学式	大社國學館
	20(土)~21(日)		神社庁研修所	初任神職研修(後期)	神社庁研修室
	25	木	岡山県神社庁	岡山県神社関係者大会	岡山県
5	未定		全国神社総代会	総代会幹部研修会	未定
	14	火	出雲大社	出雲大社例大祭	出雲大社
	13(月)~17(金)		中国地区神社庁	中国地区中堅神職研修(甲)	広島県
	21	火	全国神社総代会	代議員会	神社本庁
	22	水	神社本庁	表彰式	明治記念館
	23(木)~24(金)		〃	評議員会	神社本庁
	24	金	〃	班幣式・神社庁長会	〃
30	木	日本会議島根	武道館1万人大会	東京・日本武道館	
6	未定		島根県神社庁 (院友神職会)	在京院友神職・学生懇親会	東京
	5	水	島根県神社庁 〃	総務委員会 教化委員会	神社庁役員室 神社庁小会議室
	8	土	中国地区氏青神青	中国地区氏青神青合同研修会	島根県松江市
	19	水	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	20	木	〃 〃	役員会 身分選考委員会	〃 〃
	23	日	日本文化興隆財団	第12回 神社検定	神社庁研修室
	26	水	島根県神社庁 神政連県本部	支部長会 代議員会	神社庁小会議室 神社庁第二研修室
	27	木	島根県神社庁	協議委員会	神社庁大会議室
	未定		神社本庁	事務担当者会	神社本庁
			神社庁研修所	研修所講師会議	神社庁小会議室

初任神職研修

【主催】 島根県神社庁研修所

【期 日】 (前期) 令和六年二月十七日(土) ～十八日(日)
(後期) 令和六年四月二十日(土) ～二十一日(日)

※四日間研修を右二日間ずつ分割実施する。

【目 的】 『島根県神社庁』出雲市大社町杵築東二八六番地
神社本庁研修規程に基づき、新たに任用された神職に
対し、神社本庁・神社庁の組織を明確にせしめ、本庁包
括下の神職としての自覚と連帯感を養う。

神職任用後五年以内に修了しなればならない必修研
修です。

※参考 神社本庁総合研究所研修規程施行細則
第二条三号

【参加資格】 階位を有し、昭和五十年七月一日以降に宮司(代務者)・
祢宜・権祢宜・主典などに任用された者

【募集人員】 二十名程度

【申込方法】 ○島根県神社庁研修所入所申込書

○履歴書

○書籍申込書

※申込内容は各自で把握出来るようにコピー等、控え
ておいて下さい。

○角三封筒(B5サイズの封筒)

※一四〇円切手を貼付し、本人の住所・氏名を記入し
て下さい。

令和六年一月十九日(金)までに神社庁必着でお願い
します。

申込締切

【入所許可】

入所申込者に対して書類選考を行い、入所許可を通知
します。

※なお、入所許可の通知に併せて『研修生名簿』、『研修
生活の葉』を送付します。

【必要経費】

研修費二〇,〇〇〇円
教科書代申し込みによる教科書代金

【準備品】

研修開催までに左記の通り準備して下さい。

○白衣 ○白袴 ○白足袋 ○笏(女子はボンボリ)

○白緒草履二足(上履・下履)

○白手ぬぐい(白ハンカチ)

※白足袋・白緒草履は神社庁で購入することも出来ます。
各教科指定教科書(今回書籍を申込された方は、研修
初日にお渡しいたします。)

【教科書】

諸事情により合宿は行わず通講制といたします。
宿泊が必要な方は各自手配願います。

【研修科目】

研修科目	時間	研修科目	時間
神宮史概説	3	神社本庁憲章	3
敬神生活の綱領	3	神社本庁史(神社庁史)	5
神社実務	5	祭祀関係実技	3
伊勢の神宮と出雲大社(次代へ受け継ぐ悠久の神話と祭儀)	3		

【その他】

・研修期間中の欠席はいかなる理由があろうとも一切
認めません。

・不明な点は神社庁まで連絡して下さい。

島根県神社庁
住 所 〒六九九・〇七〇一
島根県出雲市大社町杵築東二八六番地
TEL ○八五三・一五三・二二四九
FAX ○八五三・一五三・二五八二

支部祭式助教研修会

教科書

【主催】 島根県神社庁研修所

【期 日】 令和六年一月二十七日(土) 午前九時より受付

【会 場】 『島根県神社庁』 出雲市大社町杵築東二八六番地

【目 的】 支部祭式助教の研鑽と祭式指導者養成をはかるため。

【参加資格】 支部祭式助教、その他今後祭式指導者として適任と支部長が認め推薦する者。

【募集人員】 二〇名程度予定(各支部原則一名の参加を奨励します。)

※支部二名以上の参加を希望の場合、申込締切時点での参加状況により、参加可能であればご連絡致します。(二名以上参加希望の場合は、優先順位を記入願います)

【申込方法】

【提出書類】 研修申込書

【申込締切】 令和六年一月十九日(金) までに神社庁必着でお願いします。

【必要経費】 研修費 二、〇〇〇円

※別途教本代申し込みによる教科書代金。

※同封振込用紙にて申込時に納付下さい。

【準備品】 研修会開催までに左記の通り準備して下さい。

装束類

○白衣 ○白袴 ○白足袋 ○笏(女子はボンボリ)

○白緒草履一足(下履) ○白手ぬぐい(白ハンカチ)
※白足袋・白緒草履は神社庁で購入することも出来ます。

日 程

日程	時刻
受付・改服	9:30
開講式	10:00
祭式研修 (基本作法・小祭式)	12:00
昼食・休憩	13:00
祭式研修 (小祭式)	15:00
休 憩	15:10
祭式研修 (小祭式)	17:10
閉講奉告祭 (研修生奉仕)	17:30
閉講式	17:30
解 散	

その他

・感染症対策について

・研修生の皆様には受講に際し、次のご協力をお願いします。

1、発熱等風邪の症状が見られる場合は、受講を見合わせてください。

2、受講にあたっては、感染予防策にご協力下さい。

3、研修中に窓を開放し自然換気を行う場合がありますので、十分な寒さ対策をお願いいたします。

・ご不明点は神社庁までお問い合わせ下さい。

島根県神社庁

電話番号 ○八五三(五三) 二一四九

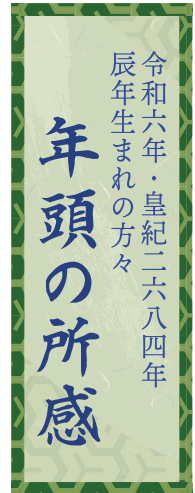
○平成二十二年改訂版神社祭式同行事作法解説

(平成二十四年改訂四版) 一、九八〇円

○平成二十年改訂版神社祭祀関係規程

(平成二十四年改訂五版) 一、一〇〇円

※改訂版以前のものは内容が大幅に変わっておりますので、必ず改訂版をご用意下さい。



出雲市湖陵町

三部八幡宮

宮司

いとが あきひろ
糸賀明広
(昭和三十九年生)



新年明けましておめでとうございます。出雲市湖陵町の三部八幡宮の宮司を継

承してから二年に満たない私が、このような機会をいただき大変恐縮しております。

私事ではございますが、以前は東京で広告の仕事に携わっていました。義父が体調を崩したことから、定年まで二年残して早期退職。令和四年四月にIターン移住、同年七月に宮司を拝命いたしました。神職として覚束無いばかりか地縁も無く知り合いも居ない中で神社を運営していく事に「大丈夫か?俺」と思っていたことを思い出します。

それでも簸川支部の皆様、そして河南部会の皆様に助けていただき、何とかやっていくことができました。力を付けて、いつか皆様のお役に立つことができたらと考えております。

神社の運営をしていて感じるのは、地域との結びつきの大切さです。神社としてどうしたら地域へ貢献できるか、また地域の一人人としてどのように地域へ貢献していくか、を考えながら日々活動しております。

とはいえ、上手くいかないことが多い。当たり前のことと思いつつ心が折れそうになります。そんな時、近くの幼稚園の園児達から「宮司さ〜ん、こんにちは〜」と声をかけられると、本当に癒されます。こんな場面からも地域との繋がりの大切さを感じます。

今後、皆様との出会いを楽しみにしております。皆様にとって幸多い一年であることを祈念申し上げます。



益田市津田町

八幡宮

権祢直

しのだ まさこ
篠田雅子
(昭和五十一年生)



新春のお慶びを申し上げますと共に、皇室の弥栄また神宮をはじめ県内各神社の御隆昌と氏子崇敬者様のご多幸を御祈り申し上げます。

新型コロナウイルスが五類となり、マスクなどの制限も任意となり諸々の制限も解除され、縮小されていた祭事も以前のように斎行されるようになりました。

お祭り同様、中止されていた神楽奉納も行われるようになり境内には刀や弓矢を持った子ども達の姿が戻り、大変嬉しく思っております。

私事ではありますが、八幡宮権祢直に拝命され十二年目を迎えました。四姉妹の長女として生を享けましたが、神主になるまでの道のりは遠回りの連続でした。神主になるきっかけは、東日本大震災でした。九メートルを超える大きな津波、大きな揺れで倒壊した

建物、親族を失ったのか海へ向かい祈り続ける人々の姿を見て自然界への脅威を感じ神主になる事を決意いたしました。神主になってからは、島根県の検定講習会の開講式で祭員をされた祭式講師の先生の祭式が美しく感動し、祭式を学ぶことで神主としての道がようやく開けたのを今でも鮮明に覚えています。

最近の当神社の試みとしては、四年前からSNS (Instagram、旧Twitter) で発信を始めました。祭典の様子や、日々の何気ない様子を定期的に発信しております。発信することにより新しい繋がりができ、昨年の例祭にはフォローワーの方が姫路から参拝に来られました。過疎化地域の小さな神社を今後どう継承していくかが当面の課題であります。今まで同様に地域の方々との繋がりが大切に、SNSなどを通じて日本中の方々との繋がりを図り、田舎の神社に少しでも興味を持っていただける方が増える事を願います。これからも発信していこうと思っております。

結びにあたり、十二年後には還暦と

いう節目を迎えます。自然の中で生かされていることを忘れずに神主としての道のりが、今まで以上に学び多き日々となりますように、今までお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、神明奉仕に努めてまいりたいと思います。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



隠岐郡隠岐の島町

伊勢命神社 祢宜

八幡龍輔
(平成十二年生)



新年、明けましておめでとございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナ

ウイルスも落ち着きを見せ、コロナ禍で中止になっていた祭事や直会も無事行われ、氏子の皆様との結束力を肌で感じる事が出来た一年でした。その一方で例年にまして災害に苦しめられた一年でもありました。夏には記録的な猛暑が続き、豪雨や台風による被害が頻繁に発生しております。その影響もあり、社殿の老朽化も進んでいく一方です。それに加えて、氏子・崇敬者の方の高齢化、地域全体の過疎化によって祭祀の継承も難しい状況になっていきます。

去年の三月に伊勢命神社の祢宜を拝命したばかりであり、未熟者ですが少しずつでも氏子の皆様一人一人と信頼関係を築き、真摯に祭祀を執り行うことで、本神社を氏子の皆様が顔を合わせる場として、心の拠り所となるよう努めてまいります。本年もよろしくお願いたします。



例祭併せ新嘗祭

十一月十日神社庁神殿において例祭併せ新嘗祭が角河庁長他役員支部長及び関係者参列のもと斎行された。



祭典奉仕者

齋主 忌部正孝 (副庁長)

副齋主 金築知宏 (祭祀委員)

祭員 森 眞史 (祭祀委員)

祭員 野上郁子 (祭祀委員)

祭員 三戸太貴

(神青協・飯石支部)

奏楽 牛尾禎竝 (浜田支部)

奏楽 牛尾麻衣 (浜田支部)

典儀 牛尾 充 (祭祀委員長)



寄稿

日本初之宮 須我神社 宝物奉納祭について

日本初之宮 須我神社宮司

勝部 和承

さる十一月二十二日、須佐之男命・櫛稲田姫命を祀る須我神社に、神社庁参与や雲南市長他を迎えて、あらまき 匱正の劍(十束の劍)と翡翠の櫛、オロチの神楽面の奉納祭を斎行した。

須佐之男之命が八岐大蛇を退治なさったとき、八岐大蛇の尾先を切ると、劍の刃がこぼれた。命は不思議に思つてその尾を裂いてご覧になると、そこから見事な太刀が顕れた。これが天の叢雲の劍である。

この太刀を稲田姫に捧げ持たせてここの須賀までおいでになった時、思わず歌が口をついてでた。『八雲立つ出雲八重垣妻籠みに八重垣つくるその八重垣を』である。ここに宮を建てよと仰せになり、お建てになった宮こそが須



鹿正の剣

我神社である。

このとき大蛇の鹿正の剣は、崇神天皇の詔により奈良の天理にある石上神宮の御神体の一柱としてお祀りされることとなった。以来須我神社には鹿正の太刀が無く御祭神はさびしい思いでいらっしやることと心を痛めていた。

今から三年前、

ご祈祷でご参拝の田中義幸さんという方が立派な刀をご持参になり、入魂して欲しいとの事であった。このとき以来何度かご参拝があり、そうした中で鹿正の太刀の話題に及んだ。田中さんは広島の方で会社の経営者であった。田中さんは「私が奉納できませんでしょうか。」と遠慮がちにおっしゃっ



田中義幸氏 挨拶

た。それ以来話が進んで、奥出雲の玉鋼を用いて製作していただくこととなった。間もなく三上高慶さんという無鑑査の刀匠（現代刀匠の最高位の称号）を伴ってご参拝になった。三上さんは奥出雲の玉鋼の生産にも関わりのある方であった。玉鋼の確保、鍛錬道場と刀匠すべてが順調に揃った。正しく大神様のなさることのように感じられた。

須我神社に玉鋼で作った刀剣、大蛇の鹿正の復元刀剣の奉納である。更に

田中さんは京都在住の金石造形作家の今井裕之さんに依頼され、



りゅうすいえい 梳翠瑛の櫛

翡翠原石を探して之を磨いて櫛を作って稲田姫様にも奉納したいと申し出られ、有り難くお受けすることとなった。

次いで地元大東町の神楽面の作家吉川武行さんからオロチ退治の後のオロチの面の奉納も行われた。

奉納祭は吉日を選んで十一月二十二日午前十一時十分から開始ということではじまった。石原道夫神社庁参与稲田神社宮司を主賓としてお迎えし、石飛雲南市長や景山雲南市教育長、内田大原支部長など十数名の方々をお迎えし、さらに四十名近い方々の参列の下に開始した。宮司の祝詞奏上に続いて田中義幸氏が奉納祭詞を奏上した。次いで鹿正の剣を宮司が受け取って神前に奉り、翡翠の櫛も同様に奉納し

た。最後にオロチの面を供えて、拝礼して永くお側に置いていただけるよう祈願した。長年の願いが叶って思わず涙が溢れてとまらなかった。この時奉納されたご神宝を一時撤下して参列者に披露。田中氏を始め、それぞれの作者三上・今井両氏から作品の説明があり、来賓の祝辞、八十六歳宮司の謝辞挨拶をもって祭典を終了した。長年の念願がかなって宮司として「最後の仕事」を成し遂げたという達成感の思いで一杯であった。

改めて田中義幸氏、三上高慶氏、今井裕之氏に感謝のことばを申し上げる次第である。なお、当日の奉納に音楽として能楽奏者の大倉正之助氏他十名による鼓の演奏や、アメリカで活躍中の賢小塩氏がわざわざ帰国して太鼓の演奏を奉納してくださった。

皆さんそれぞれ異口同音に初之宮須佐之男命様への信仰と神恩感謝を口にしていた。改めて大神様のお力の偉大さを痛感した次第である。

因みにオロチの籠正の剣は、古代文化センターの話では中国・朝鮮の刀で、

おそらく青銅器の刀であろう。だから奥出雲の大蛇の尾にあった鉄剣を切ったので刃こぼれが生じたのだらう。この神話の語るところは、縄文の時代の終焉で、やがて弥生時代の到来を示しているよう。須佐之男命が出雲へ天下られる途中大宜津姫に食事を求められた時、大宜津姫がいろんなどころから食材を取り出し、ひいてはお尻からも取り出した。命は之をご覧になりお怒りの上大宜津姫を斬り殺されてしまう。殺された大宜津姫から蚕や五穀の種が



宝物全景



宝物撤下

生じた。命はこの種を持って出雲に下り稲田の姫と結婚される。これは正しく農業の発展を語っている。五穀の種を持つ男の神と稲田の姫との結婚である。八岐大蛇は、農耕を妨げ、収穫期に頭れて田畑を壊し実りをフイにする。之を退治された命は、農耕の発展をもたらす神でもある。まあこの話は別の機会に譲る事とする。

研修所講師紹介

左記の方々に研修所講師が委嘱されました。

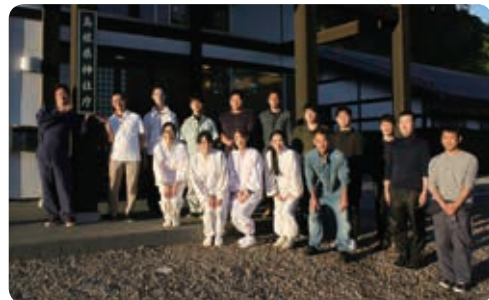
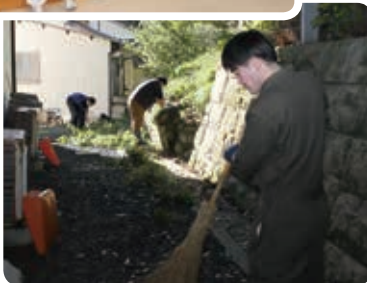
(任期 令和五年十一月一日)

令和八年十月三十一日)

氏名		奉務神社・役職
一、主任講師		
石原道夫	仰支斯里神社	宮司
一、訓育主任		
金築知宏	島根県神社庁	参事
講師(十四名)		
石原道夫	仰支斯里神社	宮司
内田貞文	加茂神社	宮司
吉岡弘行	六所神社	宮司
陶山浩正	三澤神社	宮司
牛尾充	濱田護國神社	宮司
廣江直澄	眞名井神社	祢宜
陶山浩史	杉森神社	宮司
中田宏記	物部神社	宮司
錦田剛志	立虫神社	宮司
金築知宏	島根県神社庁	参事
村尾茂樹	隠岐神社	祢宜
松尾充晶	小田神社	宮司
和田晋爾	忌部神社	祢宜
石崎彰矩	八幡宮	宮司

庁舎清掃奉仕

十月三十日(月)島根県神道青年協議会(会長巨勢佳史)並びに島根県女子神職会(会長古瀬真由美)の第十四回合同庁舎清掃を行いました。



大社國學館入学案内

詳細は直接大社國學館までお問い合わせ下さい。

《所在地・照会先電話番号》

大社國學館

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東283
電話 0853-53-2020

《募集人員》

普通課程Ⅱ類(本科生) 15名
同(選科生) 若干名
予科(別科生) 若干名

《入学試験・内容》

- 第1次 令和6年2月20日(火)
 - 第2次 令和6年3月21日(木)
 - 第3次 令和6年4月10日(水)
- 筆記試験(国語・国史・作文)及び面接

《出願手続締切》

- 第1次 令和6年2月15日(木)
- 第2次 令和6年3月16日(土)
- 第3次 令和6年4月5日(金)

遷座祭・式年祭紹介



令和五年
十一月十五日

太鼓谷稲成神社

(例祭並御鎮座式百五拾年奉祝祭)

鹿足郡津和野町 高岡 角河 和幸



令和五年
十一月四日

大土神社

(式年祭)

出雲市平野町 高岡 稲田 智之

島根県敬神婦人会総会

十一月三十日に島根県敬神婦人会(会長 千家礼子)総会が益田市の島根県芸術文化センター「グラントワ」で開催された。

篠田副庁長(庁長代理) 他来賓並びに会員約八十名が参加した。総会の後、島根県無形民俗文化財「益田糸操り人形」の上演があった。



千家会長の挨拶



篠田副庁長の挨拶



益田糸操り人形 寿三番叟



神社フォトギャラリー

神社の社殿、神事・神賑行事、神社を含む四季折々の風景など、様々なお写真を募集します。

大田支部 龍御前神社 しめ縄を新調しました
(宮司 宮能壮充様より提供)

写真
送り先

〒699-0701 出雲市大社町杵築東286 島根県神社庁 録事 高見幸子 まで
Eメール takami@shimane-jinjacho.or.jp

※ 神社名、神事・行事名や所在地、提供者のお名前を記載の上、お送り下さい。

次号までの締め切り
三月末日

奉納品



注連縄 益田市遠田町 大石信男様
誠にありがとうございました

庁務日誌

(令和5年10月~12月)

- 10月5日 臨時講師会議
- 10月10日 敬神婦人会出雲部会総会於 出雲大社(齋木理事出席)
- 10月12日 広報委員会
- 10月17日 大社國學館大祭於 大社國學館(篠田副庁長参列)
- 10月20日 定例評議員会於 本庁(忌部副庁長、木佐会長、金築参事出席)
- 10月30日 神青協・女子神職会庁舎清掃奉仕
- 11月7~8日 中国地区神社庁職員会議於 米子市コンベンションセンター(職員4名参加)
- 11月9日 祭祀委員会
- 11月10日 例祭併新嘗祭 斎主 忌部副庁長
- 11月13日 神社総代会出雲部会理事會
- 11月15日 太鼓谷稲成神社例祭並御鎮座式百五拾年奉祝祭於 太鼓谷稲成神社(篠田副庁長参列)
- 11月16日 総務委員会
- 〃 教化委員会
- 〃 那賀支部神社関係者大会於 浜田市鈴蘭別館(篠田副庁長出席)
- 11月20日 神社庁運営検討委員会
- 11月26~27日 第66回山口県神社関係者大会於 山口県教育会館(角河庁長出席)
- 11月28~29日 全国教化会議於 本庁(中田教化委員出席)
- 11月30日 島根県敬神婦人会総会於 益田市島根県芸術文化センター「グラントワ」(篠田副庁長出席)
- 12月4日 鹿足郡神社総代会総会於 太鼓谷稲成神社(角河庁長出席)
- 12月6日 正副庁長会
- 12月7日 役員会
- 〃 身分選考委員会
- 〃 研修所企画会議
- 〃 階位検定講習会運営企画委員会
- 12月12日 広報委員会
- 12月14日 第44回島根県神社総代会石見部会総会於 江津市総合市民センター(角河庁長出席)
- 12月28日 御用納祭

神職任免

(令和5年10月31日~令和6年1月1日)

任	免	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	免	免	免	任免
6・1・1	6・1・1	5・12・31	5・12・3	5・12・1	5・11・23	5・11・10	5・11・10	5・11・10	5・11・10	5・11・1	5・11・1	5・11・1	5・11・1	5・11・1	5・11・1	5・10・31	5・10・31	5・10・31	発令月日
山狭神社	津井神社	津井神社	三島神社	野井神社	豊田神社	伊佐山神社	除川神社	良神社	八幡宮	稲荷神社	三島神社	三島神社	稲成神社	天満宮	彌榮神社	稲成神社	天満宮	彌榮神社	奉職神社名
安来市広瀬町	隠岐郡隠岐の島町	隠岐郡隠岐の島町	邑智郡川本町	大田市長久町	益田市横田町	雲南市大東町	雲南市大東町	雲南市大東町	雲南市大東町	松江市石橋町	鹿足郡吉賀町	鹿足郡吉賀町	鹿足郡津和野町	鹿足郡津和野町	鹿足郡津和野町	鹿足郡津和野町	鹿足郡津和野町	鹿足郡津和野町	鎮座地
本	兼	兼	兼	本	本	兼	兼	兼	兼	本	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	本	兼務
祢宜	宮司	宮司	祢宜	祢宜	権祢宜	〃	〃	〃	宮司	祢宜	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	宮司	職名
佐伯 哲緒	吉田 均	藤野 博	宮里慎二郎	朝倉 秀樹	坂田 久好	〃	〃	〃	波多野竹彦	鳥屋尾絹枝	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	桑原 典子	氏名

新任神職紹介



村尾 美海
〔生年月日〕
平成十三年
三月二十日

〔住所〕 隠岐郡海士町
大字宇受賀二二三二一

〔奉職神社〕 隠岐神社 権祿宜
〔就任年月日〕 令和五年四月一日

〔趣味・特技〕 テニス
〔ひとこと〕 地元で奉職したくて帰りました。

地域の方と共に神社を盛り上げるよう頑張ります。
何卒宜しくお願い申し上げます。



鳥屋尾 絹枝
〔生年月日〕
昭和六十一年
六月一日

〔住所〕 松江市石橋町一三二

〔奉職神社〕 稻荷神社 祢宜
〔就任年月日〕 令和五年十一月一日

〔趣味・特技〕 読書
〔ひとこと〕 皆様のご指導ご鞭撻を頂けますと幸いです。何卒宜しく

お願い申し上げます。



朝倉 秀樹
〔生年月日〕
昭和四十七年
九月九日

〔住所〕 大田市長久町長久

〔奉職神社〕 野井神社 祢宜
〔就任年月日〕 令和五年十二月一日

〔趣味・特技〕 サウナ、読書、瞑想
〔ひとこと〕 微力ですが無力ではないので期待に添える様努めてまいります。

ご指導のほどお願い致します。

神職帰幽

雲南市加茂町 比和神社

宮司 山本 正巳

令和五年十一月三日 享年八十

松江市竹矢町 稻荷神社

宮司 渡部 公行

令和五年十一月十四日 享年八十七

謹んで哀悼の意を表します。

島根県神社庁長 角河 和幸



开社☆ガール通信

美保関で出雲三大神話を学ぶ

美保関にて「出雲三大神話」について学び、神話ゆかりの神社を巡りました。

松江観光協会美保関町支部（松江市美保関町美保関六六一）の一階をお借りし、出雲神話の勉強会を行いました。

出雲三大神話は、出雲国風土記の「国引き神話」、古事記の「国造り神話」「国譲り神話」の三つがあり、美保関はそのすべての神話の舞台となります。今回は、メインテキストとして「新版 古事記（角川文庫）」と「出雲国風土記（講談社文庫）」を使用しましたが、書籍によっては少しずつ内容読み下し分、口語訳が異なっています。例えば、国造り神話に登場する「スクナヒコナノカミ」が着物としてまとっているものは、角川文庫版では「ミン



勉強会

サザイの皮」とありますが、他の書籍では「ヒムシ（蛾）の皮」となっているものもあります。他の部分も、同じ場所を読み比べると少しずつ違いがみられ、さまざまな解釈がされていることが分かります。意見交換の時間でも、色々な解釈や理解が生まれ、楽しく学

ぶことができました。

その後、神話に登場される神様が祀られている美保神社および末社に参拝しました。

末社の久具谷社（松江市美保関町美保関）は「国造り神話」に登場されるヒキガエルの神様、多邇具久命（たにくのみこと）が祀られています。美保神社境内からのルートで片道十分ほ



くぐたにしゃ
久具谷社

どの山登り。自然に囲まれた綺麗な社殿で、すがすがしい気持ちになりました。

美保神社(松江市美保関町美保関六〇八)は「国譲り神話」に登場される事代主神(ことしろぬしのかみ)が祀られています。国譲り神話を再現・儀礼化した諸手船神事(十二月三日)、青柴垣神事(四月七日)はとても有名で、コロナ禍後、また多くの方々が訪れるようになりました。

また、もう一柱の御祭神でいらっしやる三穂津姫命(みほつひめのみこと)は、日本書紀に登場されています。

この日参拝したもう一社の末社、^{たすしや}糺社(松江市美保関町美保関)の御



^{たすしや}
糺社

祭神は「国造り神話」に登場されるカカシの神様、久延毘古命(くえびこのみこと)です。古事記では「歩くことができないのにあまねく天下のことを知っている」と記されており、知識豊かな神様です。

社☆ガールのルーツでもある美保関の地を、今後も勉強会やガイドなどで語り継いでいきたいと思っています。

益田支部だより

衣紋「独著装」研修会

八幡宮 宮司 鳥居正嗣 ^{とりい まさし}

新型コロナウイルス感染症が五類となり、様々な取組が感染症流行前のように行われるようになってきたことを歓迎している方は多いと思います。鳥根県神社関係者大会も益田市を開催地として行われました。この大会に開催地の支部として係わらせていただく中で、改めて益田支部の絆の強さを実感したところです。

さて、益田支部では例年、衣紋「独著装」研修会を行っていました。しかし、新型コロナウイルス感染症のため、中断を余儀なくされていましたが、感染症の広がりも落ち着きを見せていたこともあり、また、益田支部独自の研修として開催してきたこともあり、昨年度は次のように開催をしました。

主催者 鳥根県神社庁益田支部長

主管 益田支部教化部会

日時 令和五年三月二十四日

午後四時 開講式

午後九時 閉講式

場所 津田八幡宮

できるだけ多くの神職が参加できるようにとの配慮から、開講式を四時からの実施としました。正式参拝、支部長挨拶の後、参加者それぞれが斎服の独著装に取り組みました。

また、益田支部には五つの部会がありますが、その中で第二部会と第四部会は毎年、祖神祭(そじんさい)を斎行しています。祖神祭は、神職の祖神である天児屋命(あめのこやねのみこと)と布刀玉命(ふとだまのみこと)に、ご奉仕させていただきますに感謝し、一層



の御神徳を願うお祭りです。私が所属している第四部会では、例年十二月第三土曜日に益田支部長を来賓としてお招きし、宮司七名が輪番で祭典を行っています。

益田支部及び部会が行っている特徴的な取組を、それぞれ一例ずつ紹介させていただきますました。この例に限らず、これまで行われてきた様々な取組についての意義や経緯に思いを馳せながら、今後も励んでいきたいと思えます。

編集後記

私の住む大田市温泉津町では、最近家じまい墓じまいをする家が、多くなってきた。また空き家や田畑の耕作放棄地が、ひと際目立つようになつて来ている。従つて当神社においても、神棚廃祀の祭が増えつつある。

先般、当市への移住希望者に、空き家の物件等の紹介をする、市役所の職員さんの訪問を受けた。現在、市全体で約四十世帯の移住希望者があるそうだ。移住の条件としては、買収はあくまで空き家だけで、山林や田畑を含めた一括買収は、敬遠されるらしい。

しかし、年々空き家が増える当町にも、近年四世帯の若い移住者があつた。この人たちは、町内で住居として空き家を、さらに町の中心部(温泉街)では、空き店舗を買収して起業している。職種は、主に飲食業やサウナ等である。現在この地域は、地元の人や移住者の相次ぐ起業もあつて、かつての賑わいを少しずつ取り戻して来ている。

神棚廃祀が進む中、今後当神社としては、この若い人たちの協力とその活力にも期待したい。ともに手を携えて、祭の振興を図り、地域の再生に全力で取り組んでまいりたい。(宮)

島根県神社庁報(第三六〇号)

発行日 令和六年一月二十五日

発行者 島根県神社庁

編集 広報委員会

委員長 陶山 浩正 委員 鳥屋尾 浩

副委員長 宮能 壮充 委員 江角 恵

委員 石崎 彰矩